

# 分析美学の諸問題

## Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

# 第12章 メタ芸術

芸術論が想定していなかった種類のジャンルは、「メタ芸術」として作用する  
メタ芸術の四つの形態(←第8章)

あらゆる芸術にそれぞれの要素があるが、書においては……………

- ・レディメイド 既成の詩、既成の文字 (造形的自由度に制限がある)
- ・介入(インターベンション) 脈絡から分離された詩 作品間の選択
- ・記録(ドキュメンテーション) 制作経緯の定着 時間性から空間性への翻訳・変形
- ・言葉 観念性の浸潤

五番目の要素を付け加えるなら、

- ・越境(ジャンル誤認の誘発) (「介入」の変種か)  
詩×視覚芸術×時間芸術×選択行為  
名目種としての文字の造形表現……………音声表現としての歌詞との比較  
精神性と技術性の相克  
選択行為における「自制」の要請(最後の作品が最上とは限らない)  
人生のメタファーとしての「自制」(「コンコルドの誤謬」の亜種への抵抗)

Calligraphyとの比較

「孤高の天才」「早熟の第一人者」は可能か 経験的不可能性か、論理的不可能性か、  
規範的不可能性か

# メタ芸術としての書

## 二層におけるメタ芸術性

- ①表現媒体である文字を表現対象に(媒体かつ対象としての文字 意味と形態との融合)
- ②展示作品の氷山の一角性(行為の対象化の顕示 代理性・代表性・例示性の顕示)  
選ばれた出品作品と選ばれなかった諸作品との関係は？ 作品のメレオロジー

行為(真の作品?)      A

特別なひとつの展示作品(出品作品)      t                      大多数の非展示作品      x

仮説1     $A \ni t$   $A \ni x$     行為は、すべての作品を要素とするクラス

仮説2     $A \supset t$   $A \supset x$     行為は、すべての作品を部分とする非クラス    あるいは、作品素(各々が要素)のクラスが各作品

仮説3     $A \supset t$   $A \ni x$     出品作品は行為の要素である試作品のうち出品候補を集めたクラスの代表である

仮説4     $A \ni t$   $A \supset x$     出品作品は作品素が統一されて一となった一要素であり、非出品作品は作品素(各々が要素)を集めたクラスである

仮説1    はすべての試作品を個別化し、平等に扱う

仮説2    はすべての試作品を個別化せず、平等に扱う

仮説3    は出品作品を全体のラベルとする    試作品の一つであるとともに集合である

仮説4    は出品作品を全体の特異点とする    試作品の一つであるとともに作品素である

絵画、工芸、音楽、小説、映画……に関して同様の存在論的見方は可能か？

行書

隸書

草書

草書

楷書

書を展示作品として解釈すれば……

意味情報(構造、論理) 美的情報(組織、肌理)

内容

個性

伝える

メッセージ

タイトル、詩の意味

選ぶ

パフォーマンス

筆勢

創る

形式

一般性

使う

デザイン

字の形、配置

創る

スタイル

書体

選ぶ

書を**展示行為**として解釈すれば……

**意味情報**(構造、論理)    **美的情報**(組織、肌理)

**内容**  
個性  
伝える

**メッセージ**  
**展示作品**  
選ぶ

**パフォーマンス**  
**全作品制作過程**  
創る

**形式**  
一般性  
使う

**デザイン**  
**作品の選択**  
創る

**スタイル**  
**展覧会の種類**  
選ぶ

書を選択行為として解釈すれば……

意味情報(構造、論理) 美的情報(組織、肌理)

内容

個性

伝える

メッセージ

選択結果

選ぶ

パフォーマンス

選択経緯

創る

形式

一般性

使う

デザイン

選択基準

創る

スタイル

テキスト(古典)

選ぶ

書をインストレーションとして解釈すれば……

意味情報(構造、論理)

美的情報(組織、肌理)

内容

メッセージ

展示作品

選ぶ

個性

パフォーマンス

会場整備、照明

創る

伝える

形式

デザイン

展示作品の配列

創る

一般性

スタイル

空間の公的機能

選ぶ

使う



茶道を総合芸術として解釈したときの書は……

意味情報(構造、論理)      美的情報(組織、肌理)

内容

メッセージ

パフォーマンス

個性

真跡の種類

来客ごとの交換

伝える

選ぶ

創る

形式

デザイン

スタイル

一般性

表具、位置

画か書かの選択

使う

創る

選ぶ

超芸術トマソンをオブジェ(物理的対象)として解釈すれば……

意味情報(構造、論理)

美的情報(組織、肌理)

内容

個性

伝える

メッセージ  
失われた用途  
選ぶ

パフォーマンス  
現在の形象  
創る

形式

一般性

使う

デザイン  
もとの形象  
創る

スタイル  
廃墟  
選ぶ

超芸術トマソンをコンセプチュアルアートとして解釈すれば……

意味情報(構造、論理) 美的情報(組織、肌理)

内容  
個性  
伝える

メッセージ  
無為の芸術の可能性  
選ぶ

パフォーマンス  
路上観察  
創る

形式  
一般性  
使う

デザイン  
写真記録  
創る

スタイル  
見立て・環境芸術  
選ぶ

## 文献

Nicholas Wolterstorff *Works and Worlds of Art* (Oxford U. P. 1980)

David K. Lewis *Parts of Classes* (Wiley-Blackwell 1991)

村上三島『書と人間』(ブレーンセンター 1996)

飯村昭彦『芸術状物質の謎』(雷鳥社 2009)